

SNS担当者交流会

●5月14日稚内市にて、道内建設会社の有志が参加・運営する「SNS担当者交流会」が開催されました。今回は、交流会に参加した弊社社員（元SNS運用担当）の報告を掲載いたします。

●概要

「SNS担当者交流会」は、道内建設会社のSNS発信担当者有志が、ノウハウや日々の悩みを共有するべく開催している交流会です。2024年9月、自社でのSNS運営に早い時期から注力されていた、福津組（本社・古平）・横関建設工業（同・倶知安）・中田組（同・稚内）の担当者が発起人となり第1回が開催され、以降、業界における自社のSNS発信を共通のテーマに掲げ、交流や学びの場として活動しています。

第4回までは札幌市を会場に開催してきた本交流会ですが、道内の広い地域で交流の機会を促していくという観点から今回は稚内での開催となり、全道から年齢性別も幅広く12社20名が参加しました。



●課題への共感とノウハウの共有

交流会ではグループに分かれての議論や全体発表の時間が設けられており、各社のSNS発信に関する手法やコツについて具体的なお話を伺えます。その中で感じたのは、各社の持っている強みや抱える悩みが様々だということです。多くの会社が集まるからこそ、課題に感じている点を互いに共感しあえますし、様々な強みを持ち合わせた会社が集まるからこそ、課題解決へ向けたノウハウを互いに共有しあえます。

会を通して、事前に設定されていたディスカッション用の議題以外にも、各担当者の抱えている不安や課題が会話の中で漏れ出した際に、共感や、役立つノウハウの共有がごく自然なものとして行われている点が印象的でした。

●各社のSNS活用事例の紹介

弊社ではSNSを活用して、弊社の実施する「道内建設業担い手確保助成事業」についての発信を行っています。SNSの運用目的は各社で多岐にわたります。

SNSを採用活動の一環として活用されている会社からは、投稿内容の工夫によって女性技術者の採用・都市部からのIターン採用に繋がった事例が共有されました。勤務条件や待遇等の、数値からは伝わらない会社の雰囲気が発信できるように工夫した点や、都市部から離れた地域だからこそ、会社の所在地に関する情報を投稿して、移住後のイメージが湧きやすいように工夫した点が有効だったのではないかと振り返ります。

交流会の中で実施された、(株)中田組 中田代表の講話では、自社のSNS運用が社員同士のコミュニケーション増加や離職者の減少といった、思わぬところへ波及している事例が紹介されました。建設業という業種柄、同じ会社でも職員同士が顔を合わせにくいという障壁が、SNS投稿によって緩和されたことや、社員の家族がSNSをチェックすることが、仕事への安心感や理解の深まりに寄与していると話されていました。

他社のSNS活用事例についてお話を伺う中で、SNSの発信力の強さを改めて実感するとともに、運用目的に沿って工夫を凝らすことの重要性や、SNSの活用が自社の情報・魅力発信に有効な手段であることを再認識しました。

●まとめ

SNSを運用して自社をPRする動きが活発化してきているとはいえ、各社のSNS担当者は1～2名という会社が多い印象です。そのようななかで、社内で共有・相談しにくい悩みを互いに語り合い、情報交換ができるこの交流会は貴重な場だと感じています。

次回は8月にSNS担当者として経験1年未満の方を対象とした「初心者交流会」も開催されるとのこと。道内SNS担当者同士のリアルな交流の輪が広がっていくことで、発信力や結束力の強化につながることを期待しています。

